

石綿疾患診断学ぶ

労災 病院 モンゴル医師ら研修

アスベスト(石綿)による疾患の早期発見につなげようと、モンゴルの医師ら18人が25日、岡山労災病院のアスベスト疾患研究・研修センター(岡山市南区築港緑町)で診断技術を学んだ。

同病院と川崎医科大学総合医療センター(同市北区中山下)の医師が、エックス線やコンピュータ断層撮影(CT)の画像で注意を払うべき所見や疑われる呼吸器疾患について解説。研修を受ける医師らは実際の画像分析や質疑応答を通じて知識を深めた。

モンゴルでは配管などに石綿が広く使われているといい、デルゲルマーさん(29)は「関連疾患の先進的な診断技術や診療のノウハウを日本で習得したい」と話した。

研修は、広島市のNPO法人が国際協力機構(JICA)の事業採択を受け進める同国への医療支援の一環。



同国の医師らはまややく、羊の毛で作られた、西日本豪雨の被災れた靴下100足を、者支援として、ラクダ一研修に同席した国際

医療ボラ
ンティアA
MDA(本
部・同伊福
町)の関係
者に寄託し
た。
(小若菜美)

CTなどによ
る画像診断の
技術を学ぶモ
ンゴルの医師
ら